企画・制作 朝日新聞社広告局 広告特集

『鹿の王』日本医療小説大賞 受賞記念対談

作家・文化人類学者 上橋菜穂子さん × 日本医師会会長 横倉義武さん

謎のウイルスによる感染症の拡大を防ぐべく奮闘する医師が登場する、
上橋菜穂子さんの長編小説『鹿の王』が
第4回日本医療小説大賞（日本医師会主催）を受賞した。
それを記念して、上橋菜穂子さんと日本医師会会長の横倉義武さんが、
『鹿の王』で描かれる命を守る闘い、また日本の医療のあるべき姿について、語り合った。

命を守る闘い、医療のこれから

人の体は細菌やウイルスの共生体

上橋 『鹿の王』は物語を楽しんでいただきたくて書いたものですので、日本医療小説大賞のような意義ある賞をいただき驚いています。

横倉 本賞は医療への国民の理解と共感を深めていただきたいとの思いで2011年に創設しました。医師以外の方が執筆した作品の受賞は初めてです。『鹿の王』はスケールが壮大で理屈抜きに読んで楽しい作品です。同時に感染症や免疫、ワクチンのことなどが非常に分かりやすい例えで描かれています。

上橋 この作品を書く前に医学や免疫、ウイルスや細菌の本を読んでとても面白かったんです。私たちの体は膨大な細菌やウイルスの共生体で、構成要素は常に入れ替わり、変化しています。自分の体のなかで一体何が起きているのか。そんな興味がこの物語を書く一つのきっかけでした。

横倉 人体の不可思議さについては現代の科学でも解明できないことがたくさんあります。医療や治療の常識も時代とともに変わっています。

上橋 抗生物質の発明で感染症を撲滅できると思っていたら、抗生物質は人間に有益な菌まで殺してしまうことが分かってきた、なんてこともありますね。

横倉 医療の最先端の話をやさしく、分かりやすく書くのはとても難しいことだと思います。

上橋 今回はなるべく医学用語を使わず書くようにしましたが、間違った知識を読者に与えてはいけないので、内科医のいとこに監修をお願いしました。

神の采配、運命を感じる医師の仕事

横倉 私が印象的だったのは、無理な治療はせず魂の救済を目指す宮廷医師と、西洋医学的に病気の原因を突き止めてとことん治療しようとする主人公ホッサルらの対立です。江戸末期の漢方医と西洋医学のあつれきを思い出しました。

上橋 死生観も病をどう捉えるかも文化によって違いがありますが、分析的な西洋医学は今や世界のどこでもスタンダードになっているように、やはり普遍性があるのだと思います。同時に、病の原因より、一人ひとりの症状に着目し、苦しみを和らげようとする東洋医学的な発想も意義あるものだと思います。

横倉 実は日本の医療は両者のバランスがよくとれています。日本医師会の会長だった故武見太郎先生らの尽力で漢方薬が保険に適用されたこともあり、現在の日本の医療現場では患者の手術後のケアなどに漢方薬がよく使われています。

上橋 それは素晴らしいことですね。今、とても良い医師たちに家族を助けていただいていますが、良い医師は病だけでなく、心も救ってくださいます。

横倉 医療は人と人との間で行われるなりわいです。患者さん一人ひとりと向き合い、人間として寄り添うことが大切です。

上橋 私は医師ほど人の運命、神の采配を日常的に感じざるを得ない職業はないのではないかと思います。人は最後は必ず何かしらの病で亡くなっていくはかない存在です。それでもそんな悲しみを背負ってもがいている人の手助けをしたい。ホッサルが医師になった気持ちを、小説のなかでそう書きました。

横倉 よく分かります。医師は一人でも多くの命を救おうと常に全力を尽くしますが、同じ手術をしても元気になる方がいれば、亡くなってしまう方もいます。ところでホッサルが新しい治療法について説明し、どの治療法を選択するか患者側に聞くシーンがありますが、あれはまさにインフォームドコンセントですね。

上橋 医療については、専門家である医師に委ねざるを得ない部分もありますが、自分の命のことですから、自らも学び、最後の決断は自分でするという気持ちも大切だと思うのです。病気や治療法を患者に分かりやすく教えるという医療者側の努力と、自ら学ぶ患者側の努力、両方が必要だと思うのです。

横倉 医療や健康に関しての正しい情報をきちんとお届けすることは、医師会としても大きな課題です。私どもが以前から取り組んできた市民公開講座などの活動も、今後ますます重要になってくると思います。

上橋 今はネットやメディアでの情報が豊富ですが、正確な情報を選ぶのが難しいですね。情報におどらされてしまうこともありえますし、高齢者になるほど情報弱者になりがちなので、そこを支える仕組みは必要だと思います。

かかりつけ医を核に健康寿命を伸ばす

横倉 これからは元気に生きられる健康寿命を伸ばすこと、そのための予防医学が重要です。

上橋 本格的に病む手前で引き返せたら、これに勝ることはありませんね。一点の曇りもない全き健康など幻想で、どこか具合が悪いところがあって当たり前なのでしょう。その不具合に命をとられず、なるべく苦しまず、不具合と折り合いをつけて生きていくという考え方も大切であるような気がします。

横倉 高齢化が進むなか、住み慣れた地域で安心して暮らしていくには、医療、介護だけではなく幅広い分野の人々の協力が必要です。その中心的な役割を果たせるのが、かかりつけ医です。みなさんにはぜひ自分の体や健康、病気について気軽に相談できる、かかりつけ医をもっていただきたいと思います。

上橋 病にはその人の生活環境や習慣、家族や仕事、人間関係など様々なものが関わっていますし、「地域のお医者さん」は、そういった病の背後にあるものまで視野に入れられる可能性があって、そういう意味でも重要な存在ですね。

横倉 まずかかりつけ医が診断し、そのうえで専門の医師につなぐ連携が地域でつくられてきています。

上橋 かかりつけ医と大病院との連携がもう少し見えやすいと安心ですし、セカンドオピニオンももっと気軽にできるような仕組みがあるとうれしいです。

横倉 日本では幸いなことに国民皆保険によって、原則的には保険証さえあれば、いつでもどこの病院でも診てもらうことができます。

上橋 海外ではそれは当たり前なことではないんですよね。アメリカでは自分が入っている保険によって、受けられる治療が異なることがあると聞いたことがあります。医療は経済や社会システム、倫理観など様々なことに左右されますが、病む人と、治そう、助けようとする人の間にあるものですから、そのあり方や仕組みは、社会全体で考えていかなくてはならないものだと思います。

横倉 医療は医療関係者と国民との信頼関係があってこそ成り立つものです。誰もが良質な医療を受けられ、安心して暮らせる社会を目指して、日本医師会として今後も尽力してまいります。

“体のなかで何が起きているのか その興味が物語の始まりでした”

作家・文化人類学者 上橋菜穂子さん

うえはし・なほこ／1989年『精霊の木』で作家デビュー。著書に『精霊の守り人』をはじめとする『守り人』シリーズ、『獣の奏者』シリーズなどがある。川村学園女子大学特任教授。小さなノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞、本屋大賞など受賞多数。

“誰もが良質な医療を受けられて 安心できる社会を目指しています”

日本医師会会長 横倉義武さん

よこくら・よしたけ／1944年生まれ。69年久留米大学医学部卒業。西ドイツへの留学、医療法人弘恵会ヨコクラ病院理事長・院長、福岡県医師会会長などを経て2012年に日本医師会会長に就任。

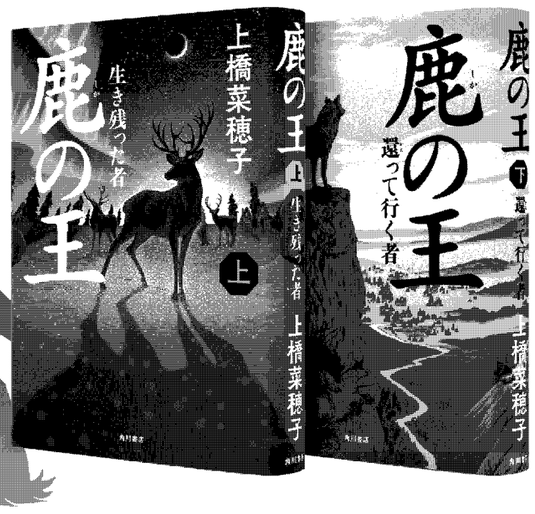
上橋菜穂子

鹿の王

上 生き残った者
下 還って行く者

キャラクター原案・梶原にき

緻密な医療サスペンス！
壮大なる人間ドラマ。



巨大帝国が他民族への侵略を繰り返す世界で、突如謎のウイルスが発生する。
感染から生き残った父子と、命を救うため奔走する医師。
過酷な運命に立ち向かう人々の“絆”の物語。

命をつなげ。愛しい人を守れ。

どこのものでもない景色が、人々の営みが、私たちの世界を揺さぶる。
異世界を覗いて初めて、当たり前に存在する「病」を見つめなおす。
同じ景色を異なる絵の具で描き、新たな景色を浮かび上がらせるように。
——杏さん（女優）

冒険小説を読んでるうちに、医学を勉強し、
さらに社会を学ぶ。一回で三冊分。
——養老孟司さん（解剖学者）

定価各（本体1,600円＋税）
㊤ISBN 978-4-04-101888-0 ㊦ISBN 978-4-04-101889-7

全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本 2015年本屋大賞

2015年 本屋大賞第1位！

累計100万部突破!!

国際アンデルセン賞《作家賞》受賞第一作 第4回 日本医療小説大賞受賞（日本医師会主催）

新しい物語をつくろう。 KADOKAWA

角川書店 本作の試し読みができる特設サイトはこちら→ 鹿の王

発行：株式会社KADOKAWA http://www.kadokawa.co.jp/ 03(3238)8521(営業) 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
※お近くに書店がない場合は、KADOKAWA 読者係 049(259)1100（土日、祝日、年末年始を除く9時から17時）からもご購入いただけます。

電子書籍も好評発売中！「BOOK☆WALKER」（http://bookwalker.jp/）など電子書店で購入できます。